

## ベトナム高校生22名が来日!

### ~高校訪問やホームステイを通じて“生”の日本を体感しました~

アイム・ジャパンでは、国際親善交流を促進するために、開発途上国の高校生を無償で日本に招待する「高校生親善交流事業」を行っています。2014年7月14~24日には、ベトナムから高校生22名が来日。高校生達は、2週間の滞在を通じて、日本の文化について学びました。

「お早うございます。私の名前はアインです。どうぞよろしくお願ひします」7月14日、アイム・ジャパン本部を訪れたベトナム高校生達は、出迎えたアイム・ジャパン柳澤会長はじめアイム・ジャパンの職員に向け、覚えてたの日本語を使って一生懸命に自己紹介をしました。今回来日した高校生の中には、海外渡航自体、人生で初めてという人が多くいましたが、「費用を負担することなく日本に滞在する機会を得ることができ、本当に嬉しい」と顔をほころばせながら期待に胸を膨らませました。

滞在3日目の7月16日、西武学園文理高等学校を訪れた高校生一行は、同校の生徒と英語のディスカッションを行い、日本とベトナムの良いところについて話し合いました。時に言葉につまずきながらも、通訳に頼ることなく、自分たちの力で何とかコミュニケーションをとろうとする高校生達の姿が印象的でした。ディスカッション終了後には、グループごとに話し合いの結果を壇上で発表。「日本のいいところは、時間やルールを守ること、人々が親切なところだ」といった意見や「お寿司やうどんなど、食べ物がおいしい!」「ベトナム

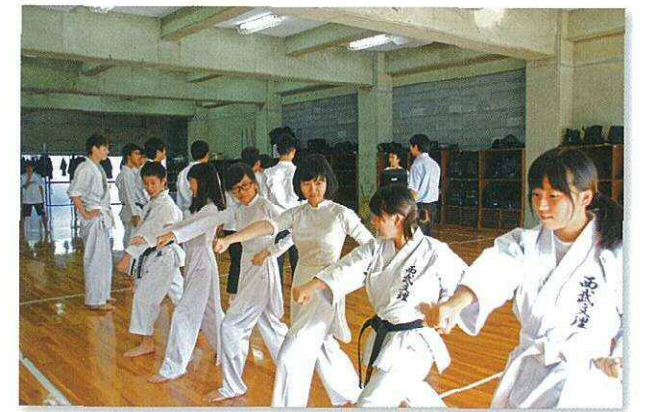


はフォーやアオザイが魅力的」といった高校生らしい意見が多く出されました。

さらに、同校のクラブ活動を見学することになった一行は、グループに分かれ、空手部、茶道部、書道部の活動を体験しました。空手部では、黒帯の生徒による型の披露や試合を前に、ベトナム高校生一同驚き、その迫力にただただ圧倒されていましたが、「突き」や「蹴り」を手取り足取り教えてもらおうと、体育館の中には歓声が溢れ返りました。

茶道部では、同校の生徒達によるお点前を頂くことになったベトナム高校生達。暑い最中の訪問ということで、掛け軸や茶道具には涼しさや季節を演出するものが多数使われており、そうしたアイデアやお客さんのことを考える気持ち一つ一つが日本のホスピタリティ精神なのだという説明を受けました。「ベトナムにも固有のお茶やお菓子がありますが、このように改まって

頂く機会はありませんので面白い」と文化の違いに興味を示す声も聞かれました。また、書道部ではベトナム高校生自らが筆を持ち、書道を体験。日本人高校生がベトナム高校生の名前を漢字表記で考え、それを実際に和紙の上で書くことになりました。とても良い思い出になったようで、出来上がった作品を大切に持ち帰る姿が見られました。



7月19~21日には、1~2名ずつに分かれ、アイム・ジャパン職員の家庭でホームステイを体験しました。都内の家庭に滞在したドウックさんは、ホームステイファミリーとともにJリーグの試合を観戦。元々サッカー好きとあって、日本のスタジアムで見る試合はまた格別だったようです。また、お寿司やそば等の日本食を振舞われ「おいしい!」と目を輝かせました。一方、千葉県に滞在したギアさんとコイさんは、春巻き等のベトナム料理をホームステイファミリーと一緒に作り、すっかり家族の一員になった様です。他にも、富士山を見に行ったり、鎌倉観光に行ったり、渋谷や原宿で買い物を楽しんだり、高校生達はそれぞれの家庭で2泊3日のうちに



様々な経験を通して生の日本を体感しました。

日本滞在最終日となった23日には、都内でアイム・ジャパン主催の歓送会が開かれました。高校生達は、アイム・ジャパン職員やホームステイファミリーを前にベトナムの歌や民族舞踊を披露。最後には全員が一緒になって歌を歌い、最後の夜を楽しみました。閉会時には、2泊3日をともしたホームステイファミリーとの別れが辛いらしく、涙を流す高校生達が多く見られました。

アイム・ジャパン柳澤会長は高校生達に対し「どうか今回の滞在で学んだことをベトナムに帰ってたくさんの人に伝えて下さい」とメッセージを送りました。高校生代表として挨拶をしたドウックさんは「今回のような経験は、誰もができるわけではありません。貴重な機会を与えて下さった日本の皆さん、アイム・ジャパンの皆さん本当にありがとうございます」と話し、笑顔で帰国の途に着きました。

